

有限会社 アイ.タイムズ

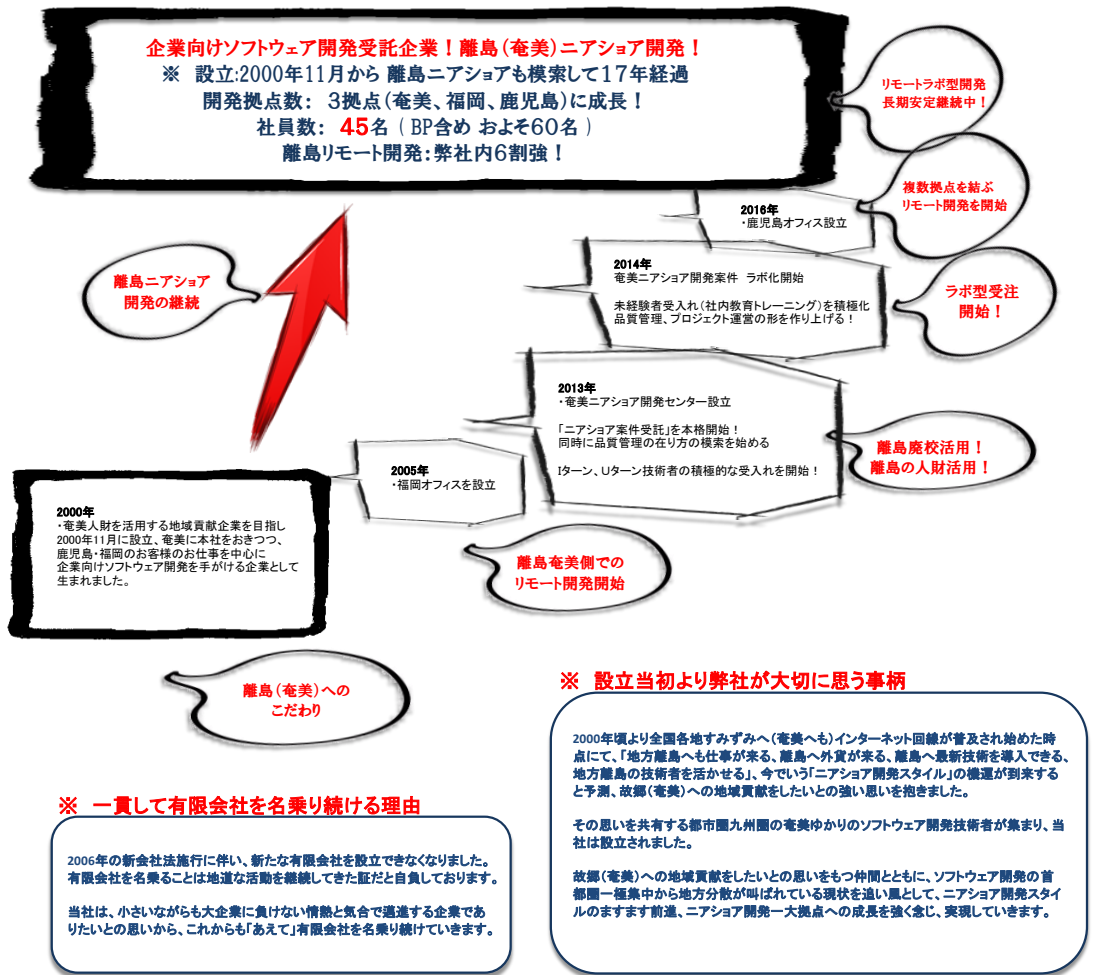


2019年12月

有限会社アイ.タイムズ
代表取締役社長

米澤 亮治

1. 有限会社アイタイムズとは



2. 弊社のアピールポイント

都市圏と比べ圧倒的「低コスト」!

※ 「低コスト」の理由

地方(離島)は都市圏と比較して人件費が安く、人件費の占める割合の高いソフトウェア開発費用を抑えることができます。弊社は故郷(奄美)への貢献を第一としており、必要な投資は積極的に行いますが、利益優先主義とは相いれない考えを持ちます。コストは成果物品質により大きく左右されます。お客様受入後を含めたトータルコストを下げるべく、品質確保にも注力します。

技術者としての「モノづくり」への誇り

※ 「モノづくり」への誇り

私どもは朴訥とした地方技術者の集団、システム作り(「モノづくり」)に「誇り」をもち真摯に向かい合う人間の集まりであります。離島に本社をおく企業ではありませんが、モノづくり・作業品質向上に関して、都市圏企業・技術者に遜えないレベルを目指します。

地道な品質確保への取組みを継続

※ 「お客様」とともに成長するチーム

数年来、ラボ型契約を締結・一定要員でチーム維持する試みを行っており、ラボ型開発が拡大・安定化してきております。ラボ型開発といえども、契約書上で「準委任契約」の形であっても、良いシステムを作り上げるにあたっての「誇り」は忘れません。常に作業品質UPを目指し「何故? どうして?」の原因追究、改善工夫の繰り返しです。お仕事の形態問わず、弊社としての見解をさせていただき、作業スタイル・プロセスの合理性をお客様と協議、開発を進めていく!それが弊社のスタイル・持ち味です。

3. 開発情報・技術者情報

開発実績

No.	案件名	期間	作業規模	特徴
1	県税務総合システム構築	2010年～2012年	計10人月	発注元開発現場常駐型
2	SE向け社内システム開発	2011年～2016年	計75人月	発注元開発現場常駐型
3	地銀インターネットバンキング開発	2013年	計50人月	鹿児島・奄美間リモート開発
4	BtoB運営 ASP請求書システム/新規開発	2013年	計120人月	東京・奄美間リモート開発
5	BtoB運営 ASP請求書システム/戦略的機能改善	2014年～現在	各月 14～19人	リモート・請求書システム利用ユーザ拡大用機能改善
6	介護事業所業務支援パッケージ開発	2015年～現在	各月 1～2人	技術者常駐型+ラボ型開発
7	省庁向け情報開示システム構築	2015年～2016年	計30人月	東京・福岡・奄美間のリモート開発
8	顧客向けWebポータルシステム(新電力/都市ガス)	2016年	計20人月	発注元開発現場常駐型
9	顧客向けWebポータルシステム(新電力/都市ガス)	2017年～現在	各月 2～5人	弊社開発拠点持帰り・一括委託契約
その他秘匿性高いものを含め割愛				

※ 短期間、小規模の案件は割愛

分野別技術者

(2019/12 現在) ※ 重複あり

業務系	技術者数
公共	1
自治体	2
省庁	10
金融	5
郵政	5
バンキング	6
市場性業務(為替)	1
生保年金	1
融資審査	3
企業系	2
通信業	8
設備管理	8
会計管理	1
流通業	1
製造物流生産管理	4
クレジット	4
バックヤード	2
財務会計・購買調達	2
企業間請求書発行等	16

言語別技術者

(2019/12 現在) ※ 重複あり

言語	人数
Java	40
C#	11
Visual Basic.NET	8
ASP.Net	6
PHP	6
COBOL	5
C++	2
VisualC++	2
Delphi	2
C	1

拠点別

(2019/12 現在) ※ 社員

拠点	開発	オペレータ	計
本社	0	0	0
奄美ニアショア開発センター	29	0	29
福岡オフィス	8	0	8
鹿児島オフィス	8	0	8
計	45	0	45

役割層別

(2019/12 現在) ※ BP含む

名称	役割	人数
プロジェクトマネージャ	開発部門責任者	9
リーダー	開発案件プロジェクト責任者	8
サブリーダー	リーダー補佐	8
グループリーダー	小グループリーダー(2～3名グループ単位)	10
SEプログラマー	一般開発者(被指示者)	24
教育訓練受講者(見習い)	訓練中	1
合計		56

4. 目標・課題

開発技術者不足

- ※ 離島(奄美)へのU/Iターン促進
 - ・ 島暮らしの魅力発信・定着へのサポート強化
 - ・ 戻りたい(移住したい)技術者の幅を広げる
 - ～新しい分野[WEBフロント系]の体制強化、トライ
- ※ 地場要員の育成トレーニング
 - ・ 助成金活用のトレーニング強化拡大
 - ・ 地元自治体からのご支援!

プロセス改善強化

- ※ 開発マネジメント練度強化
 - ・ 奄美ニアショア開発のノウハウを規定化
 - 見える化し、社内共有・標準化
- ※ 新たな得意分野の創出
 - ・ WEBフロント系技術者の拡大、育成、受注強化

顧客案件の拡大

- ・ 東証一部上場ユーザ企業様、業務支援パッケージ企業様、大手SIベンダー様等とお付き合いの機会を頂いています(ほぼ直契約)。
- ・ 今後の展開として、ユーザ企業様を主なターゲットとして受注案件受注数拡大を目指したい。(複数チャンネル経由・新規技術分野への挑戦)

5. 弊社の開発活動

営業活動

現状: 既顧客、関係社からの紹介で新規顧客開拓中(主要顧客5社)
将来: ニアショア機構サービスを活用しつつ新規顧客・案件を拡大していきたい。

狙い: 長期安定継続した体制を維持できるか否かの観点で、新規顧客(案件)を探していきたい。新しい業務分野として「WEBフロント系」技術を活用できる案件受託を創出していきたい。

提案活動(見積り)

見積りは基本的に工程単位で行っております。
開発対象分野、対象範囲、要求仕様、対象コンポーネント(機能分割)、作業プロセス、生産物・納品物、他諸条件が明確に定義されていか否かを事前確認したうえで、原則FP見積り手法に則り、弊社練度等を加味して見積り・作業計画を立案・提案致します。

品質担保のための諸活動(中間レビュー、検証)は、お客様とともに行うものと考え、作業プロセスの相合せ・認識合わせを同時に行います。

プロジェクト計画立案

プロジェクト予算(原価)、期間、チーム体制、責任者(役割)、開発ターゲット(対象コンポーネント)、概要スケジュール、監視点等を定義したプロジェクト計画を立案し、弊社内開発拠点にて、検証・承認を行ったうえで、プロジェクト開始宣言を行います。

プロジェクト実行

要員アサイン、責任者の任命を経て、プロジェクト実行を開始します。
定義された概要スケジュールをもとに、担当別・日別・タスク別の詳細スケジュールを作成、当該スケジュールに基づき開発作業を進めます。

作業状況は基本的に日次に確認、早期問題抽出を促します。
定期的(通常、月次)には、作業状況評価・品質状況評価を行い、予測されるリスクの洗い出しを実施、必要な対応を検討します。

プロジェクト実行中のノウハウ・知能は、社内ノウハウサイトに登録、ノウハウの記録・活用を行い、生産性確保・知識伝承を促進します。

プロジェクト終了評価

顧客問い合わせ事項、テスト不具合等の解決が全て完了していることを確認、最終月次分析時の品質状況をもとに、プロジェクト終了可否を評価します。
(社内拠点ごとの責任者判定)

また、プロジェクト終了局面にてプロジェクト参加者全員での「反省会」を開催、自由な発言・提言を交わし、次プロジェクトへのモチベーションUP、及び社員スキルUPを図っています。(これは正式会議とは位置づけず緩い位置づけで開催、発言交換の壁を下げていきます)

納品作業

契約時にお客様ご指定の方法で納品致します。

現状、開発中よりお客様と共用のバージョン管理ツールを利用している例が多く、バージョン管理ツールへのコミットにて納品物の納入を完了する事例が大半です。

最終的には弊社より納品書を出発・もしくはお客様からの検収書をいただき、納品が完了します。

6. ニアショア受託開発への取り組み方

コミュニケーション

遠距離リモート開発における最大の障害は、「お客様」「開発者」間のコミュニケーションにあります。

電話会議・TV会議・文書管理（バージョン管理）・作業計画管理等のツールを活用し、遠距離のハンデを乗り越えます。（場合によってはお客様拠点に訪問）

コミュニケーションが密であっても、思い込み・勘違いは常に発生する可能性があります。この問題は、お客様の組織文化・背景・狙いを開発者側が十分に把握できていない、及び開発者側の作業実施・マネジメントの考え方をお客様へ十分に伝えきれていない（当たり前と思い、相互に確認をしない）ことから発生すると考えます。

我々は、開発経験豊富な開発チームリーダーがお客様窓口担当と会話し、思い込みによるミス（もしかして違うかも）の可能性を排除するよう工夫します。

また、弊社の作業プロセスを規定するドキュメントをもとに、弊社の考え方の（傾向）をお客様へお伝えする努力を実施、相互の思い込みによる諸問題を排除するよう工夫します。

作業品質改善

我々の思いは「良い作業品質こそが高い品質を生み出す！」です。

「良い作業品質」を作り出すことは、我々の任務であると考えます。

開発チームにおいては定期的（通常月1回）に、失敗・問題・悪い傾向・良い傾向を整理分析し、作業品質向上につなげる活動を継続しています。（傾向分析、定量分析、個人傾向、問題の諸元を突き詰めて考える）

この継続こそが我々（組織・個人）を成長させると信じております。

品質は開発者側だけで作り上げるものではなく、お客様とともに作り上げていくものであると信じております。この活動による分析・提言はお客様へも報告し、お客様とともに作業品質UPとともに成長していける関係を構築したい、と考えます。

見積り・計画

見積りは、基本的に工程単位で行い、開発ターゲットの確定、コンポーネント（機能）単位の確定定義、開発阻害条件有無を見定めて行います。基本はコンポーネント（機能）単位を元にしたFP見積り手法をベースにします。我々の開発プロセスとの整合度合いも重要な観点です。

一括受託案件はもちろんです。ラボ型開発・準委任契約であったとしても、我々なりの見積り実施・作業計画立案を行います。

お客様側のご予算・作業方針（お考え・希望）と相反する場合は、合理的な計画（予算）とできる限り、誠意をもって協議させていただくスタンスです。

我々は「お手々を提供するだけ・結果責任はない」とは考えません。

我々の考え違い・お客様の思い込みなど理由はさまざまですが、良い計画は良い作業品質に繋がります。良い作業品質こそが高い品質を生むとの信念のもと、責任のある開発作業を貫徹したく、上記のスタンスを貫きます。

リスク管理

リモート開発においては、失敗は重大な損失を生むため、こぼれ先の杖としての「リスク管理」（トラブル予防）は欠かせません。

定例の品質分析、顧客からの声（クレーム・口調）の傾向・量、開発チーム内の雰囲気・愚痴など、あらゆるところに「リスク管理」のネタが点在すると考えます。

顕在化していないが発生するかもしれない諸問題は、ゼロから発見するものではなく、担当者個別では明確に表現できないが「もやっ」と思っていることが大部分です。

毎日の定例会、週1回の定例会、月次の報告会の発言、などを材料に、もしかして？絶対ない？の点検を繰り返し、リスク管理の題材にあげます。

リスクは怖がるものではなく、備えるものであるとの認識を社員で共有し、よい安全なプロジェクト運営を目指します。

チーム体制

遠距離リモート開発では、あいまい・不確かな作業条件・仕様が命取りです。弊社は案件チームごとに経験豊富なチームリーダーをおき、お客様ご担当との会話の窓口として、確度の高い・間違いのリスクを低減する体制とします。

チーム内ではチームリーダー・サブリーダーをおき、チーム内の作業品質の監視・品質担保計画の実行を推進します。

ニアショア開発を複数社で分割受託する形も対応可能、責任範囲を明確にしたうえで、協業社間での歩調を合わせながら開発を進めるやり方にも慣れています。

我々の思いは「品質第一」にあります。よい感じに手抜きしてそこそこの品質に仕上げることができるほどのテクニックはありません。いつも全力投入です！

計画的要員配置

我々の重要な武器である「低コスト開発」を維持していくうえで、品質確保は欠かせませんが、作業精度を維持しつつ計画的な要員配置（転換）も重要な方策です。

都市圏と比べ案件量も少なく離島専業FP要員多くない環境下で、案件が途切れた場合に都度要員をリリースすることは難しい環境です。

まだまだ小さな企業ですので、案件が途切れる（要員空きが生じる）場合は、経営に重大な影響を及ぼします。

案件の續き具合・展開を予測しながら、全体的に安定したマネジメントを実行できるよう、計画的な要員配置（転換）を実施します。

モチベーション維持

リモート開発チームでは、毎日の定例会（通常、朝会と呼称）を実施、作業状況（進捗具合）、問題有無、体調管理などを行います。

業界の性格的に「閉じこもり・他者を巻き込まない」傾向がありますが、弊社はソフトウェア開発はチーム戦であると認識し、チーム内の会話（声がけ）を活性化、チームとして助け合う・相談しやすい・気にかけてあげやすい環境構築を目指します。

若手は、積極的にチームリーダー・サブリーダー・グループレADERの役目を体験させ、プロジェクト運営、良い作業品質への気づきを促し、やる気の向上を図ります。

セキュリティ確保

・開発室の出入りは電子錠でガード、入室記録をとり不審侵入へのガードを行います。

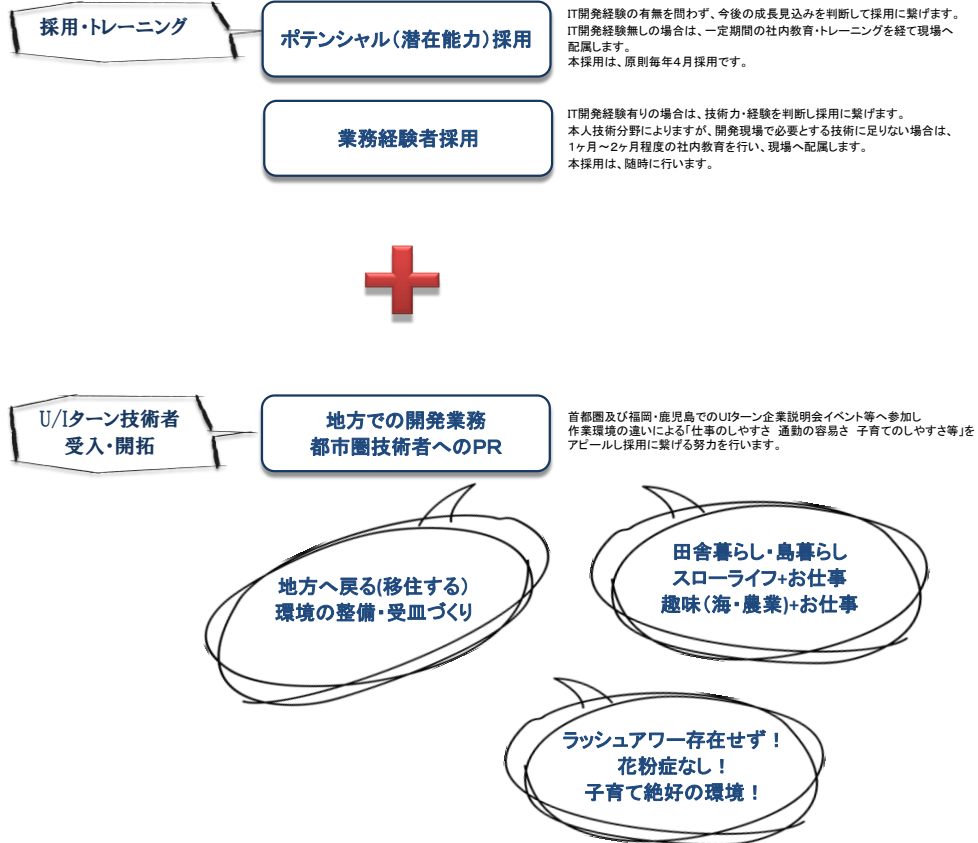
・USB等電子媒体の持ち込み（利用）はセキュリティ規定で禁止

・毎日の開発室退出時は机上に資料放置厳禁、PC放置厳禁、個人別鍵付ロッカーに資料・PCを格納するクリーンルームを実現しています。

・開発室内での電子文書のやり取りは、会社で用意する事務所内ファイルサーバー経由で行います。ファイルサーバーは鍵付サーバラックに格納、データ盗難を防止します。またファイルサーバーアクセスは開発室作業者のみが可能、管理者が与える個人別ID/パスワードでガードします。

・開発室内では複数顧客・複数案件の開発作業が並行しており、ファイルサーバ内は、関与していない顧客情報・案件情報にはアクセスできない仕組みです。

7. 採用・トレーニング



8. 最後に

弊社は、離島に本社と主要開発拠点をおきながら、都市圏のお仕事を主体に受注開発している全国的に珍しい会社のひとつです。

まだまだ小さな会社ではありますが、昨今のニアショア開発の潮流を追い風にして、新しい分野への挑戦を続けます。

私たちは、離島(奄美)に居住する(田舎者)集団ではありますが、島人(しまんちゅ)の心を大切に、

- ・仕事の質にこだわり！
- ・よい仕事をしたい！
- ・よい「モノづくり」をしたい！

という気持ちを忘れず、常に自己改革・前進を続けます。



弊社の特徴は、

「前向きに」+「常に良くしていく行動(仕組みとモチベーション)」
にあります。

短期間一品モノのお仕事には向いていないのかもしれませんが。

しかしながら！

「**長期に継続的に**」お付き合い頂くことで、きっと右肩あがりの成果を期待できるでしょう。

(現在のお客様たちはそのようにご支援いただき、弊社は確実に成果をお返ししてきました)



「噛めば噛むほど・・スルメのような・・」、私たちの「島人(しまんちゅ)魂・持ち味」を味わっていただければ幸いです。

皆さまの応援・ご支援を何卒よろしくお願い致します。

有限会社アイ、タイムズ
代表取締役社長

米澤 亮浩